

事務事業評価における総括

部 局 名	企画部	記入責任者	秋元 一正
評価について（現状と課題）			
<p>【事業の達成状況について（現状）】</p> <p>企画部 5 課では、平成 28 年度に「災害応急活動」「庁内共通事務」「部内共通事務」を除き、96 事業に取り組みました。結果、S 評価が 71 事業、A 評価が 9 事業、B 評価が 7 事業、C 評価が 5 事業、Z 評価が 2 事業、実績なしの事業が 2 事業でした。</p> <p>企画部の事業は、庁内はもちろん、庁外の関係機関等と調整を進めながら取り組むべきものが多いことが特徴です。そうした特徴を踏まえ、事業の実施成果に着目すると、成果があがった事業は 77 事業、今後成果が見込める事業が 12 事業であったのは、事業目的を認識しながら事務を進めた結果であり、政策目標の達成に向けて、概ね順調に取り組みが進められたものと評価しています。</p> <p>【達成できた（できなかった）要因についての分析（課題）】</p> <p>C 評価とした事業として、企画経営課の「政策コンテスト事業」及び「豊かな長寿社会コンソーシアム運営事業」、広域事業政策課の「高速道路料金適正化の促進」及び「中海岸寒川線の整備促進」があります。これらの事業の多くが関係機関等との調整について想定の活動量を達成できなかったことによるものであり、調整の結果が目に見える成果に結びつくよう粘り強く事業を進めていく必要があります。</p>			
今後の方向性			
<p>【政策・施策目標の達成に向けた各事業の今後の方向性について】</p> <p>平成 28 年度に取り組んだ事業について、成果があがった事業及び成果が見込める事業は 89 事業（95.7%）でした。これらの事業については、必要な見直しを適宜行いながら、継続して取組を進めます。特に成果が今後見込めるとした事業については、より効果的な手法を検討し、目に見える成果に結びつくよう重点的に取り組む必要があります。</p> <p>なお、「成果が見込めない」という評価となった事業はありませんでした。</p> <p>企画部では、働き方の見直しを進めていることから、事業の実施成果をしっかりと見極めながら、積極的な事業の見直しに今後も取り組みます。</p>			